

平成31(2019)年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えよくする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子どもたちにとって、学が楽しさが味わえ、成長を実感できる学校を目指します。 ○子どもたちにとって、安全で安心感のもてる学校を目指します。 ○保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校を目指します。 ○教職員にとって、教育者としての喜びが味わえる学校を目指します。
	前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校関係者評価委員会では、本校の教育について地域関係者・保護者からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。児童は、明るく素直に育っている。 <課題>朝読書、補習タイムやほねぶとタイムを日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力や体力の数値目標が達成できていない。さらに教員の授業改善、授業のユニバーサルデザイン化の推進を行い、教育の質の維持向上を目指す。	

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業参観・協議会・・・年3回 6年生の体験授業・部活体験の実施連携・・・年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	C	B	6月に中学校の授業を参観し、子供たちの学習への取組方について共通理解を図った。児童の体験は、2学期に実施予定。児童アンケートにより、中学校での生活を楽しみにしていると答えた児童は、現在のところ7割に満たない。	A	目標値が高すぎるのではないかと。現在は活動の途中であり、未体験なので心配が先に来ってしまったと想像する。今後は改善すると思う。	小中連携プログラムに基づき児童の気持ちに留意しつつ、体験授業等を計画通り実施する。
	地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム・・・各学年1回 江戸川区相模連運と連携した相模教室の実施 地域を活用した学習・・・各学年年3回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	C	A	全学年「ふるさと学習」の計画し実施中。1年生の朝顔栽培、4年生の篠崎公園の観察は、すでに実施済みだが、その他は今後実施予定。よさを感じている児童は、現在8割ほどで安定している。PTAとの協働、学校応援団の方に栽培活動、図書ボランティア、登校見守りを行っていただく体制ができた。	A	「ふるさと学習」は進行中とのこと。成果も伴っていると考えられる。また、地域との連携も良好であると見受けられるので、今後はさらに成果が上がることを期待する。	地域への思いを大切にしながら、計画通り確実に実施する。
	環境教育の推進	持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	もったいない運動の取組実施全学年 環境を考える学習・・・各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	B	A	ゴミ袋、節電、節水などの項目においても削減がみられているが、児童のもったいない運動への参加意識は、75%ほどであった。環境を考える授業は現在計画的に実施中。	A	光熱費やごみなどが着実に削減されていて素晴らしい。今後もこの姿勢を続けてほしい。	少しの気のゆるみが無駄につながるので、定期的な点検を継続させる。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	教材提示装置やデジタル教科書の活用を週3日以上実施 ICTアシスタントと連携した授業・・・年5回 目的を明確にしたICT教員研修・・・年3回	学年に応じて、ICTを活用できる児童の割合8割	B	A	ICT研修会は、計画的に実施中。8割以上の児童が、各学年の目標を達成しているが、ICT活用の質を高め、プログラミング教育について学習を進める必要がある。	A	8割以上の子供が、各学年の目標を達成したことは素晴らしい。今の子供の知識は目を見張るものがある。	来年度からのプログラミング授業がスムーズに導入できるように資料を収集する。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 各学級のユニバーサルデザイン化の推進	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携・・・各学期授業参観・適時授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別の教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学期崩壊なし	A	A	SC、心理士、専門員、介助員で連絡を密に取るなど、児童の困り感に応じた支援体制ができています。児童アンケートで「楽しい」と答える児童は8割を超え、学期崩壊などではなく落ち着いている。しかし、些細なことでのトラブルはあるので、事態をよく把握し、人間関係形成力をつける指導は継続する必要があります。	A	様々な児童がいる中で8割の児童が楽しいと回答していることは、学校の職員がよく連携しているとうことだと感じる。今後も肯定的な回答が向上していくことを期待する。	今後も教職員の連携を密にして計画通り、指導する。特に全校でユニバーサルデザイン化を強化する。
	教員の授業力の向上	主体的に学び、表現しようとする児童の育成を目指し、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善	授業観察・・・年3回以上計72回以上 研究授業・・・年6回と事前授業10回 OJT研修・・・年10回以上	児童アンケートで分かる授業への肯定的な回答8割	B	A	全学級で計画的に授業改善に努めている。9割近くの児童が授業が分かりやすいと感じている。しかし、校内研修やOJT研修などで授業力改善を目指しているが、授業観察等では、まだまだ改善の必要がみられている。	A	常に授業改善に努めている成果として9割近くの児童が分かりやすいと感じている。今後は子供たちのために継続してほしい。	新学習指導要領を踏まえた授業改善をOJT研修等あらゆる機会を通して計画を確実に実施する。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習タイムの実施・・・年100回以上 各学期にベネッセリアル診断テスト実施 家庭学習期間の実施・・・年4回	算数のワークテストの基礎・基本問題で全国平均以上の回数か8割 診断テストの平均正答率が一学期より5ポイントアップ 家庭学習カードの提出10割	B	C	補習は、週4回計画的に実施中。東京ベネッセドリルでの1学期当初と終わりの比較では、7年級で正答率の向上が見られたが、5ポイントアップは3年級にとどまった。また、ワークテストの基礎・基本の問題は8割ほどの理解がみられる。家庭学習の提出率の目標達成は、9年級にとどまった。	B	学校の学力向上の取組や目標は、適切と思う。継続して行っていけば、いずれ成果が出てくるのではないかと。	児童の不得意分野を把握し、計画通り確実な指導を目指し、個別指導を徹底する。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業・・・各学期1回以上(12時間以上) 図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進	調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に関する肯定的な回答9割	B	B	教育課題実践推進校として校内研究を進め、全学年で図書館を活用した探究的学習を行っている。学校図書館を活用することに関する肯定的な児童は、まだ7割程度にとどまっている。図書館スーパーバイザー、図書ボランティアとの連携により、図書館整備は進んでいる。	B	チロちゃんボードを使うなど、子供の興味関心を高める活動を行っており、取り組みの姿勢は良好な活動と思う。目標には、2割足りていないという事だが、これは長い目で見ていく必要があると思う。	読書月間や教育課題実践推進校としての研究をさらに深め、計画通り実施し、図書館活用の良さを実感させる。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	ほねぶとタイムの実施・・・週1回 みんなでどん! クラスでどん! 大縄大会 持久走記録会 新体力テストの実施・・・年20回以上	児童アンケートで、運動を進んでいるに肯定的な回答児童8割 新体力テストにおいて、総得点が昨年度より上がった児童が9割	B	B	ほねぶとタイムは計画に実施中。しかし、児童アンケートによる運動に対する肯定的な回答が7割にとどまっておらず、さらなる改善が必要である。今後新体力テストの分析を行い、今後の計画に活かしていく。	B	運動は、日常生活と深いかわりがあるので、家庭の協力も必要ではないかと。	ほねぶとタイムを計画通り確実に実施する。運動の日常化を確認し、家庭との連携をより強めていく。
外国語教育の推進	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいた授業・・・35時間 オリパラコーナーの工夫・充実・・・年6回以上更新 外部講師を活用した授業・・・各学年1回以上	児童アンケートでやりかけた喜び・将来への夢や希望に関する肯定的な回答9割 オリンピック・パラリンピックに興味・関心が高まった児童9割	C	B	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいて、計画的に実施中だが、2学期以降に多くを実施予定。1学期は、女子バレーのオリンピックを招聘した。夢や希望を持つ児童の割合が7割に満たないことは課題である。継続指導が必要である。	B	夢や希望をもつ児童の割合が7割程度というのは、意外である。ただし、計画は、これらが中心であるとのこと。今後に期待したい。	夢をあきらめずに実現させようとする気持ちを育てていくことを目指しながら、計画を確実に実施する。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	担任がT1で行う授業・・・全授業時数の8割	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	C	B	ALTが配当されている時間のT1はALT、それ以外は担任がT1で、担任がT1で行う授業は、5割強にとどまっている。外国語科となり、児童はやや難しいと感じているようなので、一層教材研究をし、授業を工夫していく必要がある。	B	教科の内容が高度化していることも関係していると思う。ただし、最後は教え方が大切だと考える。	ALTとの連携をさらに深めると共に、担任の授業力を高めていく。
	健全育成の充実	生活習慣の向上・情報モラル意識の向上	「学級SNSルール」、「東小子どもルールブック」、「東小家庭学習の手引き」、「東小家庭学習がばりカード」の作成と活用・・・年4回 情報モラルについての学習・・・各学年1回以上 学年単位の挨拶運動・・・年6回以上 生活習慣見直し集会・・・年3回	インターネット被害なし 児童アンケートで規範意識に対する肯定的な回答8割 児童アンケートで挨拶をしていると回答する児童9割	B	B	健全育成に向けた取組は計画通り実施中。インターネット被害はないが、トラブルはあつた。規範意識に対する肯定的な回答は、学級によってややばらつきがある。挨拶に対して肯定的な回答が8割を超えている。さらなる規範意識や挨拶の向上を目指す。	A	取組や目標設定を評価する。粘り強く指導していけば必ず成果は出てくると思う。	計画通り実施する。セーフティー教室でネットモラルを取り上げる予定。児童だけでなく、家庭も啓発していく。
健全育成の充実	いじめ・不登校の早期解決	いじめ・不登校に応じた未然防止・早期発見に関する指導の充実	いじめ未然防止授業・・・各学年1回以上 いじめ防止「東っ子行動宣言」の作成掲示・・・通年 SOSの出し方指導・・・5年生年1回 校長講話・・・年3回 児童アンケート・・・年3回 生活指導委員会による情報共有・・・毎週金曜日 スクールカウンセラーの全員面接・・・5年 人権集会の実施・・・年3回	学校満足度調査(Q-U)による満足割合が全国平均を超える学級9割 いじめ・不登校の早期解決 継続なし	B	B	いじめは、7月までの調査で複数確認しているが、適切に指導しており、解決している。これからは、SSSを全員がさらに活用することを目指す必要がある。また、Q-U調査では、学級の満足割合については、全国平均より下回っている学級が、7年級であった。今後は、学年や生活指導部で組織的に対応したり、スクールカウンセラーと連携したりして、いじめの未然防止、早期発見により一層努めていく。	A	「東っ子行動宣言」は、素晴らしいし、効果的な活動であると思う。また、そのほかの活動も良好に感じる。	Q-U調査の結果を定期的に確認し、児童理解に努め、現状把握し、全職員で組織的に対応・指導を継続する。
働き方改革の推進	計画に基づいた職務遂行	見直しをもった職務遂行	スクールサポートスタッフの有効活用・・・随時 職員室の一層の整理整頓	一斉定時運動日の実施・・・月1回	B	B	SSSの活用は、定着させることができた。また、一斉定時運動日の実施も月1回行っている。これからは、SSSを全員がさらに活用することを進め、在校時間の短縮を図ってきたい。職員室の整理整頓も定期的に行っているが、日常的に注意していく必要がある。	B	先生たちの負担を減らすことはいいことだと思う。しかし、そのために人員を増やす等自治体の支援など、学校の問題ではないのではないかと。	職務効率化のさらなる追求、SSSの活用の拡大。軽重をつけた計画的な勤務の推進。